鯖は魚釣島近海に

サンマの稚魚発見

長崎試験船 鶴丸帰る

水産試験場とタイアップして去る二十三日から八重山近海の鯖漁場を調査した長崎県水産試験船つる丸（一二〇トン）は二十九日一応の調査を終え、三十一日朝帰途に向つた。同船には沖縄側から二名が便乗し調査に参加したが、鯖漁場の概要を次の通り報告している。琉球近海の黒潮暖水は二十三度以上を示し八重山群島の西岸に沿い北東に延び沖縄群島の西方に北上している。大陸の沿岸水（冷水）は二十度以下で北緯二〇度三〇分東経一二四度三〇分付近で南下し魚釣島から東北東に向つて二つの水系潮境がのびている。従つて漁場としては魚釣島付近から東北東にのびる潮境付近が最適とおもわれ、調査の結果では餌料としてのアミの回遊も多数発見している。これまでの報告では沖縄の西方は水温も低く鯖の浮上がみられないが今後は魚釣島付近に出漁するよう水産課でも呼びかけている。なお、つる丸の調査途上で久米島西方海域でサンマの稚魚らしいのをプランクネットで採取、その他大刀魚の稚魚を発見したと日本の試験船が報告しているなど琉球近海は産卵場として注目されているようである。

1955.2.1
T

1955年02月01日